

東京科学大学病院支援基金について

東京科学大学病院は、先端的医療の研究開発や診療体制の充実、医療人材の育成などを通じて社会に貢献しています。いただきましたご芳志は診療体制の充実や人材教育、研究開発に活用し、未来の医療の発展に役立てます。

ご支援の方法

ご寄附の際は、支援先を**[東京科学大学病院支援基金]**としてください。

※高額のご寄附をご検討される場合、寄附者が法人の場合は、社会連携課までご連絡ください。

●右の二次元コードから「東京科学大学病院支援基金」に直接お申込みいただけます。



●お支払い方法をお選びいただけます。

- クレジットカード
- インターネットバンキング
- コンビニエンスストア
- 振込(振込用紙をお送りします。
取扱金融機関：ゆうちょ銀行・三井住友銀行・みずほ銀行・三菱UFJ銀行)

基金HPからのお申込み方法

東京科学大学基金 HP

(検索サイトで「東京科学大学」と入力してください)

寄附メニュー (支援項目)

「東京科学大学病院支援基金」項目内の『寄附をする』ボタンからお申込みいただけます。

支援先に、(病院全体)、(医系)、(歯系)、を選択

ご寄附への感謝

寄附者全員	①理事長主催「感謝の集い」にご招待
30万円以上 (法人は100万円以上)	①+② ②感謝状の贈呈(初回かつ一括でご寄附) ②学内施設内に芳名刻印銘板の設置
500万円以上 (法人は1,000万円以上)	①+②+③ ③紺綬褒章へのご推薦



紺綬褒章

税制上の優遇措置

本基金へのご寄附は、個人の方は所得税法上の寄附金控除の対象となり、法人の場合は、法人税法により全額損金算入となります。ご寄附いただいた後に、寄附金領収書を郵送いたしますので、確定申告の際にご提出ください。

お問い合わせ

お問い合わせフォーム(右の二次元コード)をご用意しています。

フォーム内の『通信・備考欄』に、支援先が「東京科学大学病院支援基金」であることをご記入ください。

東京科学大学 社会連携課

TEL 03-5734-2415・2417 FAX 03-5734-2485 Email fund@adm.isct.ac.jp

検索サイトで「東京科学大学基金」と検索していただいてもアクセスできます!



お問い合わせフォーム



基金HP

広報誌「オアシス」第20号

OASIS

東京科学大学病院ニュース

vol. 20 2025

理念 世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸せに貢献する

- 基本方針
1. 患者中心の安全、良質な全人的医療を提供する
 2. 人間性豊かな医療人を育成する
 3. 高度先進医療を開発、実践する
 4. 社会に開かれた病院として、人々の信頼に応える
 5. 力を合わせて患者さんと仲間たちを守る



Contents

- 移植医療部設立記者会見
- 心臓移植における連携・協力に関する協定書の締結 調印式
- 口腔科学センター設立
- 新任教授・診療科長からのメッセージ
- 退職される教授・診療科長について
- オアシスピックス
- 東京科学大学病院支援基金について

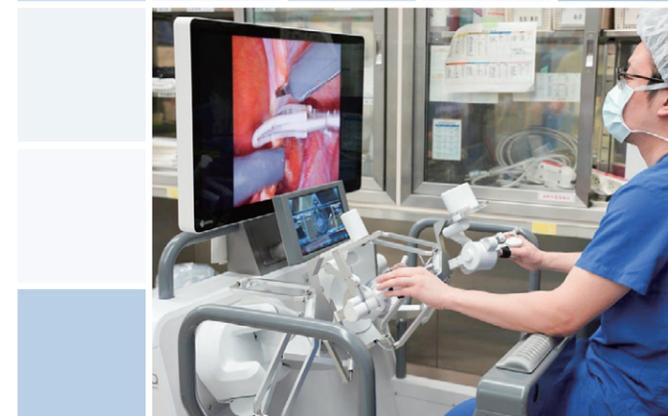
移植医療部設立記者会見



心臓移植における連携・協力に関する協定書の締結 調印式



口腔科学センター設立



進む医工 & 医歯理工連携



歩行支援ロボット体験



移植医療部設立記者会見

心臓移植の手術待機者は国内に800人以上おり、実際に移植手術を受けられるのは年間で約100例にとどまっています。この状況を改善するため、東京科学大学病院では、移植実施施設認定に向けた準備を進めており、2025年1月1日には「東京科学大学病院移植医療部」を設立します。これに先立って、「移植医療部」の設立に関する記者会見を2024年12月19日に開催しました。

移植医療部は2025年1月よりスタートし、病院A棟2階に外来を設置しております。

東京科学大学病院・東京大学医学部附属病院 心臓移植における連携・協力に関する協定書の締結 調印式

心臓移植を安心・安全に実施するためには、移植施設単独の取り組みだけでなく、周辺病院との緊密な連携が不可欠です。これまで、東京大学医学部附属病院とは、医師・看護師・事務部門間の研修や情報共有を通じて、密接な関係を築いてまいりました。そして、当院が心臓移植実施施設として正式に申請するにあたり、病院間の連携をより明確にし、相互の協力体制を確立するため、協定を締結いたしました。

協定締結の打診は約1年前から始まりましたが、部門間での調整が必要だったため、実際の締結に向けた具体的な準備は年末年始頃から本格化しました。医療の現場においては、専門領域ごとに役割が細分化されているため、心臓移植に関わる複数の診療科や事務部門が協力し、慎重に協定内容を検討しました。

調印式当日は、両病院の病院長をはじめ、心臓移植に関わる医療スタッフや事務部門の代表者が出席し、厳かな雰囲気の中で執り行われました。藤井靖久病院長からは「この協定が両病院の協力体制をさらに強化し、より良い医療の提供につながることを願う」との挨拶があり、田中栄病院長からも「これまでの協力関係を基盤に、患者さんにとって最良の医療を提供できるよう努めていきたい」との言葉が述べられました。

今後、東京科学大学病院での心臓移植実施に向けて、より多くの関係者と協力しながら、実現に向けた準備を進めてまいります。本協定をきっかけに、さらなる病院間の連携を強化し、患者さんにとって最良の医療が提供できるよう努めてまいります。



2025年2月11日

東京科学大学 口腔科学センター キックオフミーティング

超高齢社会である我が国においては、全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と、新たな材料・機器による次世代型歯科治療法の開発・実用化が急務となっています。そこでこれらの喫緊の課題を解決するために、口腔科学研究に特化した全学レベルの共同研究施設である「口腔科学センター」を2024年4月1日付で設立し、「口腔全身健康部門」、「口腔デバイス・マテリアル部門」を設置して、医歯理工連携を基盤としたトランスレーショナル研究を進めております。

2025年1月30日には、東京科学大学病院において、「東京科学大学 口腔科学センター設立・キックオフミーティング 開催記者会見」を開催し、多くのメディアに記事として取り上げていただきました。

さらに2025年2月11日には、「口腔科学センター キックオフミーティング」が開催されました。当日は、国内外の研究者や関係者を含む約250名の参加者が集い、口腔科学の未来について活発な議論が交わされました。

第一部では、口腔科学センターの設立の経緯や趣旨、施設の概要、そして今後の展開についての説明を行いました。

第二部の記念講演の講師である須田立雄先生は、日本の基礎歯学・生化学分野を代表する研究者の一人であり、骨代謝研究の黎明期から第一線で活躍されてきました。特に、ビタミンDの代謝調節とその臨床応用に関する研究において世界的な業績を残し、その卓越した業績により、日本学士院会員にも選出されています。

口腔科学センターは、今後も、口腔科学の基礎研究から実用化と、医歯理工連携を推進することで、人々の健康と社会の幸福に貢献してまいります。

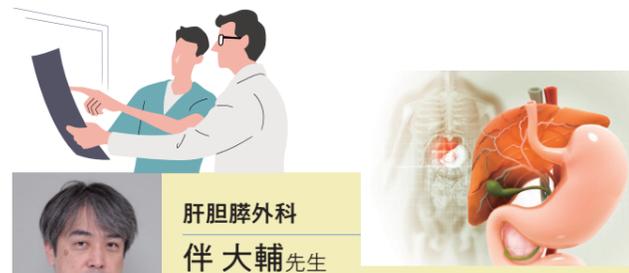


詳しくは二次元コードからどうぞ

新任教授・診療科長からの メッセージ



新しく着任した、肝胆膵外科、小児科、乳腺外科の教授（診療科長）に、
今後の抱負や診療科の特色について伺いました。



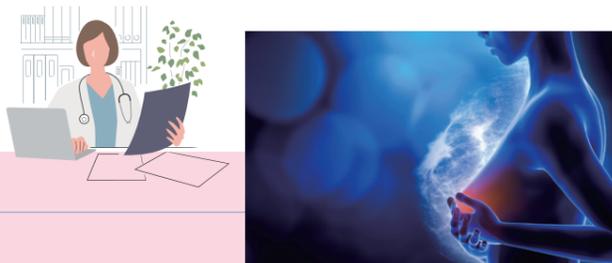
肝胆膵外科 伴 大輔先生

2024年10月より肝胆膵外科教授に就任いたしました伴 大輔と申します。肝胆膵外科領域の悪性腫瘍は難治性癌が多く、手術についても患者さんの負担が大きという印象があるかもしれません。しかしながら、この10年での進歩は目覚ましく、治療成績は大きく向上しています。特に膵がんの切除可能症例の年生存率は50%を上回るようになってきており、かつては切除できなかった症例も抗がん剤治療の進歩によって、根治的切除が期待できるようになってきています。肝がん、胆管がん領域も免疫治療の登場によって、これまでとは治療が様変わりしています。肝切除や膵頭十二指腸切除などの、もともと高侵襲な肝切除や膵頭十二指腸切除においても、低侵襲手術（ロボット手術、腹腔鏡手術）の導入は患者さんにとって大きな恩恵となります。難しい神経内分泌腫瘍や、判断に迷う膵臓の境界悪性腫瘍、IPMN についても積極的に診断、治療を行っております。



小児科 高木 正稔先生

2024年9月に小児科の科長として着任しました。東京医科歯科大学病院小児科は原発性免疫不全症の診療患者数において、国内有数の施設です。このような伝統の下、2024年10月より東京科学大学病院として、新たなスタートを切ることになりました。これまでの伝統を守り、日本における免疫異常症診療の中心施設として、引き続き高度な先端医療を提供していくとともに、血液・腫瘍性疾患への細胞療法、造血細胞移植、膠原病・リウマチ性疾患、肺高血圧症、先天性心疾患に、難治性てんかん、脊髄性筋萎縮症、内分泌疾患、早産児のケア、腎疾患、血液浄化療法、アレルギー性疾患に対する食物負荷試験など幅広い領域において、最善の医療を提供してまいります。少子化の時代、小児医療に対する家族の期待も変化しつつあります。こうした期待に応え、患者さん一人ひとりの要望に合った一般診療も積極的に提供していきたいと思っておりますので、お気軽にご連絡いただければと思います。



乳腺外科 有賀 智之先生

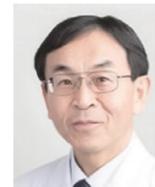
この度、東京科学大学乳腺外科教室において、2024年10月1日より新教授として着任いたしました。これを機に、当教室は乳癌治療においてさらなる飛躍を目指し、特に低侵襲治療や集学的治療に力を入れております。患者さんの身体的・精神的負担を軽減し、治療成績の向上を図るべく、最新の医療技術を積極的に導入しております。また、従来から行っている放射線科との専門的診断や、形成外科との乳房再建は継続しながら、さらに遺伝性乳癌診療や癌ゲノム医療など、個別化医療にも注力し、それぞれの患者さんに最適な治療法を提供いたします。地域の皆様により質の高い医療をご提供できるよう、当教室ではチーム医療を推進し、常に最新の治療を目指してまいります。乳癌診療に関するご相談やご受診について、お気軽にお問い合わせください。



退職される教授・ 診療科長について

今まで
ありがとう
ございました!

検査部



東田修二先生 藤井病院長からのメッセージ

東田修二先生は、臨床検査医学の教授として長年にわたり多大なご貢献をされてきました。病院の検査部長を併任され、特に新型コロナウイルス感染症におけるPCR検査の体制整備と運用においては、卓越した手腕を発揮されました。医学部長としては、場を和ませる温かいリーダーシップを発揮され、教授会を円滑に運営されたことが印象的です。私は病院長として医学部長である東田先生と接する機会が多く、そのお姿は私にとって大きな模範となりました。

検査部スタッフからのメッセージ

東田先生のご退職に際し、心より敬意と感謝を申し上げます。常に客観的な視点を大切にされ、緊急時にも冷静に、親切に対処されるご姿勢は、患者さんのみならず、部下や同僚からも深い信頼を集めておられました。検査部の円滑な運営は、先生への多大なる敬意の結果です。忙中でも血液内科医としての探究心を忘れず、患者さんのため顕微鏡に向かわれる背中に、深い尊敬の念を抱いておりました。今後のご健勝をお祈り申し上げます。

脳神経内科



横田隆徳先生 藤井病院長からのメッセージ

横田隆徳先生を初めてお見かけたのは、学生時代の神経内科の臨床実習で、40年ほど前のことです。当時大学生でいらした先生は、圧倒的な存在感を放ち、上司の先生方からも一目置かれていました。その後、脳神経病態学（脳神経内科）の教授に就任され、ヘテロ核酸を用いた中分子創薬の分野で世界的な業績を築かれました。横田先生の卓越した研究成果は、医学の発展に大きく寄与し、難病や希少疾患に苦しむ患者さんが救われる日が近い将来訪れることを期待しております。

脳神経内科スタッフからのメッセージ

横田隆徳先生、定年退職おめでとうございます。先生のPatient firstの診療への姿勢、脳神経内科のみに留まらず内科全般を重視する臨床教育への情熱、筋萎縮性側索硬化症を始めとする神経難病への治療の熱意、既存概念にとらわれないヘテロ核酸創薬を始めとした革新的なアイデアを考え出し続ける独創的な研究に、私たち医局のスタッフは常に敬服し、鼓舞されてまいりました。これからも先生の教えを胸に刻みつつ精進してまいりたいと思っております。本当にありがとうございました。

先端歯科診療センター



興地隆史先生 新田首席副病院長からのメッセージ

興地隆史先生は、2015年に本学の歯髄生物学分野の教授に着任されました。温厚でありながら情熱的なお人柄のもと、外国人留学生を含む多くの優秀な大学院生が門を叩き、先生の研究室は極めて活発な研究活動を展開されました。先生の研究は基礎から臨床まで幅広く、特に歯科用レーザー、MTA、新規生体材料、NiTiロータリーファイルなど、多岐にわたります。なかでも、歯科用実体顕微鏡やコーンビームCTと組み合わせたNiTiロータリーファイルの保険適用を実現し、わが国の歯科医療の向上に多大な影響を与えました。また、当院の先端歯科診療センターのセンター長として、最先端の機器を導入し、高度な歯科診療の提供に貢献されました。

先端歯科診療センタースタッフからのメッセージ

興地先生は本学の歯学部長、歯学科長、教育委員長など、多くの要職に就かれ、御多忙を極める中にありながら、研究では歯髄の免疫応答や再生に関する研究、またニッケルチタンファイルの開発などで成果をあらわれ、歯科医学と大学の発展のために多大なご貢献をされました。学外でも2015年から日本歯科保存学会理事長、2017年からは口腔病学会理事長など、数多くの役職を歴任されました。興地先生は、温厚で闊達なお人柄で教職員や学生のご指導にあたり、多くの研究者や臨床家を育成されました。

快眠歯科



秀島雅之先生 新田首席副病院長からのメッセージ

秀島雅之先生は、2012年9月に快眠歯科（いびき・無呼吸）外来の診療科長に就任され、睡眠時無呼吸症候群（SAS）に対する歯科アプローチ（スリープスプリント：マウスピース装着）の提供に尽力されました。当時、歯科領域における認知度はまだ低い状況でしたが、当院の快眠歯科がリーダーシップを発揮し、SASの認知向上に貢献されたことで、他の歯科大学病院にも診療科が設置されるようになりました。また、医系診療部門の快眠センターとの連携を強化し、歯科アプローチの効果が少ない中等度以上の症例では医系診療部門へ紹介するシステムを確立され、医歯連携のモデルケースとして表彰されました。

快眠歯科スタッフからのメッセージ

秀島雅之先生は、長年にわたり快眠歯科外来の講師を務められ、睡眠時無呼吸症の口腔内装置療法における第一人者として、多大なご貢献をされました。先生の気さくで温かいお人柄は、多くの教え子たちに慕われ、私も歯科の枠を超えたお話で楽しい時間を過ごさせていただきました。様々な外来のメンバーで構成された快眠歯科外来を、寛容な心でまとめられた先生は、まさに私たちの模範となるリーダーでした。先生から学んだことを胸に、これからも精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

口腔外科



依田哲也先生 新田首席副病院長からのメッセージ

依田哲也先生は、2018年に本学の顎顔面外科学分野の教授に就任されて以来、顎変形症をはじめ、顎関節疾患や骨関連疾患を中心に、研究・教育・臨床に情熱を注がれてきました。温かく包容力のあるお人柄のもと、多くの患者さんの診療にあたり、また、多くの若手教員の育成にも尽力されました。特に、咀嚼筋腱・腱膜過形成症に関しては、疾患の発見、命名、診断法および治療法の開発を通じて、その存在を世界に広められました。この成果により、日本において本疾患の治療が保険適用され、多くの患者さんが恩恵を受けています。退職後も副学長にご就任されるとのことで、豊かな知識と深い洞察をもって、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

口腔外科スタッフからのメッセージ

依田哲也先生、お疲れ様でした。顎顔面外科学分野の教授としてだけでなく、歯学部部長として、東工大との合併の他、口腔科学センターの設立など、医局のレベルを超えた、大きなお仕事をされていたと思います。臨床においても口腔外科の中の顎関節疾患のトップランナーとして走り続けられ、医局員一同大変勉強になりました。場を和ませる人情味溢れる先生がいなくなると、医局はさみしくなりますが、今後も陰ながら支えていただければと思います。

進む医工 & 医歯理工連携

2024年10月の東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により、東京科学大学病院となった当院では、着々と医工連携、および医歯理工連携が進んでいますので、そのようすをご紹介します。

東京科学大学病院では、最新の手術支援ロボット「Saroa（サロア）」を用いた手術を積極的に進めています。

このロボットは、旧東京医科歯科大学と旧東京工業大学が共同で開発し、2023年5月に製造販売承認を取得しました。Saroaの最大の特徴は、世界で初めて「力覚（触覚）」を再現した点であり、空気圧制御による柔軟かつ繊細な動きが

可能です。

2023年7月3日には、Saroaを用いた世界初の大腸がん切除手術を実施し、成功を収めました。さらに、2024年10月18日には、呼吸器外科にてSaroaを用いた2例の低侵襲手術を行い、いずれも成功しました。患者さんは既に退院され、術後の経過も順調です。執刀医の石橋洋則准教授は、Saroaのコンパクトなデザインと明瞭な視野確保が手術において非常に有用であると述べています。2025年1月には、腎泌尿器外科で前立腺全摘除術を実施し、成功を収めました。術後の回復も早く、患者さんは



合併症なく順調に回復されています。また、2025年2月6日には、Saroaを用いた鼠径ヘルニア修復手術に成功しました。担当した医師は、Saroaの軽量かつコンパクトな設計が鼠径ヘルニア手術に最適であり、今後の普及に期待しているとコメントしています。

これらの成果は、旧東京医科歯科大学と旧東京工業大学の医工連携により実現したものです。当院では、今後もSaroaを活用し、患者さんにとって安全で負担の少ない手術を提供してまいります。



歩行支援ロボット体験ランチミーティング

最先端の医療技術を広く紹介するランチタイムセミナーを、東京科学大学医療イノベーション機構医療デザイン室が企画し、東京科学大学病院スタッフを対象に開催しました。

本セミナーでは、歩行支援ロボットをテーマに、緒方大樹特任准教授（東京科学大学情報工学 三宅研究室）を講師としてお迎えし、医療従事者や研究者を中心に多くの参加者が集まりました。

セミナーでは、脳卒中やパーキンソン病患者の歩行リハビリをサポートするロボットについて紹介され、特に、歩行同調減少（Gait Synchrony Decline）に着目した技術に参加者の関心が集まっていました。

会場では、実際に歩行支援ロボットを

装着してみたいと立候補した病院スタッフが歩行を実演し、緒方特任准教授がロボットの制御を行いながら、機能や調整方法について解説しました。参加者からは、「実際に動作を見て、技術の可能性、リハビリテーション医療への応用を実感できた」といった声も聞かれました。

本セミナーは、医療イノベーション機構が推進する「HEALTHTECH DESIGN PROGRAM」の一環として

開催されました。本プログラムでは、医療現場と企業・研究機関が連携し、新しい医療技術やサービスの開発を支援する環境を整備しています。

東京科学大学病院は、最新の医療技術を積極的に導入し、より良い医療の提供を目指しています。今後も、患者さん一人ひとりに最適な医療を実現するために、最先端技術の活用と研究を推進してまいります。



東京科学大学病院支援基金・市民公開講座 「未来の医療を支える最先端の研究を知る」が終了



東京科学大学病院支援基金の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2025年3月10日に開催いたしました東京科学大学病院支援基金・市民公開講座「未来の医療を支える 最先端の研究を知る」が、多くの皆様にご参加いただき、無事に終了いたしました。

当日は、藤井病院長によるご挨拶から始まり、院長からは、東京科学大学病院の成り立ちや、医学・歯学・理工学が融合した高度な医療の提供を目指す当院の理念、そして最先端医療を支える支援基金の重要性についてお話がありました。

続いて、平川晃弘教授による「新しい薬はどうやって生まれる？～臨床試験の仕組みとパンデミック時の挑戦～」に

続いて、森雄太郎助教による「患者さん由来の3次元『ミニ臓器モデル』～慢性腎臓病を『治せる』病気に！～」の講演が行われました。

本講座は、東京科学大学病院支援基金の支えにより実施されております。より良い医療の実現に向けた研究の推進と診療体制の充実のため、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご寄付の詳細については、以下のリンクをご覧ください。

また、今後も最新の医療研究や治療技術をテーマに、市民公開講座を継続的に開催してまいります。ご興味のある方は、ぜひ次回以降の講座にもご参加ください。詳しくは、病院HPや院内のチラシ・ポスターでご案内します。

東京科学大学病院
支援基金ご案内はこちら
<https://www.isct.ac.jp/ja/003/fund/support-areas/hospital>



東京科学大学病院支援基金・市民公開講座 「東京科学大学病院と学ぶ医療の最前線」開催告知

東京科学大学病院支援基金は、先進的医療の開発推進、診療体制の充実、病院施設・環境の整備を通じて、より良い患者サービスの提供を目指しています。そしてこの度、同基金では、最先端の医学・医療研究や最新の診断技術や治療法を、広く社会に理解していただくために、市民公開講座を定期的に2025年度は6回、オンラインまたは会場で開催することに致しました。参加費は無料で、

どなたでもご参加できます。最先端の医学研究や多くの皆様が気になる疾患に関

する診断・治療法について、東京科学大学病院と一緒に学びませんか？

今後のスケジュール

5/20 火
17:00-18:00
オンライン

総合診療科
石田 岳史 先生
医療の新しい使い方
～新たな地域医療構想を
踏まえて～

摂食嚥下リハビリテーション科
戸原 玄 先生
これからの摂食嚥下
リハビリテーション

11/12 水
17:00-18:00
オンライン

リプロダクションセンター
石川 智則 先生
“今すぐ”または“将来”
の妊娠・出産をめざした生
殖医療

息さわやか外来
有富 理左 先生
「息さわやか外来」にお
ける口臭診療及び口臭予
防について

申込方法

- 参加費無料
 - 各回定員 500名
- お申し込みは、下の二次元バーコードもしくは、URLよりご確認お願いいたします。

<https://www.tmd.ac.jp/medhospital/topics/seminar.html>



お問い合わせ

東京科学大学病院事務部病院総務課
総務グループ
Eメール：pr-hosp.adm@tmd.ac.jp



※講演者や内容は変更になる可能性があります。

7/18 金
17:00-18:00
(16:30受付開始)
鈴木重夫記念講堂
(M&Dタワー2階)

腎臓内科
蘇原 映誠 先生
慢性腎臓病に10%も属する遺伝性
腎疾患～透析患者減少を目指した
診断システム開発とiPS創薬～

歯周病科
岩田 隆紀 先生
歯磨きから始める
全身疾患の予防

2026
1/20 火
17:00-18:00
(16:30受付開始)
鈴木重夫記念講堂
(M&Dタワー2階)

皮膚科
沖山 奈緒子 先生
皮膚病はなぜ発症する
のか？
動物モデルから迫る

快眠歯科外来
石山 裕之 先生
睡眠時無呼吸症候群にお
ける歯科での治療（マウス
ピース治療）

9/22 月
17:00-18:00
オンライン

循環器内科
笹野 哲郎 先生
AIと生体センサーで
不整脈を早期発見

口腔インプラント科
丸川 恵理子 先生
インプラント治療の現状

2026
3/27 金
17:00-18:00
オンライン

耳鼻咽喉科
堤 剛 先生
めまいのしくみ

歯科総合診療科
新田 浩 先生
健康寿命を延ばす歯科ドック。
むし歯、歯周病、オーラルフ
レイルのリスク評価